加東市のまちづくり

加東市のまちづくりは、「加東市総合計画」の基本理念のもとに、「多様なきずなが織りなす協働のまち」を実現するため、良好な地域コミュニティの形成を目標としています。

地域の実情に合ったきめ細かで、住民主体の自立したまちづくりを進めるために、「小・中学校区」を一つの単位とした「住民自治組織」を創設し、コミュニティ活動の積極的な取り組みを推進しています。

住民自治組織による活動を通じて、地域に絆が育まれ、コミュニティが活性化することは、そこに暮らす一人ひとりの生活の豊かさを高めていくことにもつながります。

すすむ住民主体のまちづくり

市内では、県の「県民交流広場事業」や、市の「まちづくり活動費補助金」を活用して、住民自治組織を中心とした小学校区、中学校区単位のまちづくりが進められています。

平成18年度に組織された鴨川地区をはじめ、これまでに福田地区、米田地区、社地区、上福田地区、滝野東・南地区において、住民自治組織が設立されました。そのうちの5地区が県民交流広場事業に取り組まれています。

また、東条地域においても、住民自治組織の立ち上げに向けた取り組みが進められています。

まちづくり活動のもたらす効果

少子高齢化や過疎化が進む現代社会において、地域コミュニティの重要性が高まる一方で、地域社会はさまざまな課題も抱えており、コミュニティは弱体化してきています。

そのような状況の中で、住民自治組織を結成し、まちづくり活動に取り組むことで、次のような効果が期待できます。

■交流の促進

活動拠点施設を訪れたり、さまざまな行事に参加したりすることで、同じ地域に住みながら普段は顔を合わすことのない人や、異なる世代の人、他の団体に所属する人と交流を深めることができます。

こうした住民ネットワークの広がりは、地域の活性化につながるだけでなく、災害時などに私たちを守る大きな力となることでしょう。

ステラパークで開催された「佐保の夏まつり」

■地域への愛着・関心の高まり

住民自治組織の多くが、歴史の学習会や歴史ウォーク、史跡マップの作成などに取り組まれています。これらの活動を通じて地区の歴史や文化を掘り起こすことで、今までには気付かなかった新たな地域の魅力が見つかることでしょう。

また、住民自らの手で伝統的なお祭りを開催されている地区もあります。社地区では、今年の8月に夏のフェスティバルとして「佐保の夏まつり」を開催され、「昔ながらの盆踊りと夜店のにぎわいが戻ってきた」と大きな反響を呼び、数多くの来場者がありました。このお祭りを通じて地域への愛着を深められたとともに、交流の推進、活性化に大きな効果があったようです。

■人材の育成・発掘

まちづくり活動の企画や運営に取り組むことで、地区のリーダーや、次世代の担い手の育成が期待できます。

また、さまざまな知識、経験、技能をお持ちの方が、まちづくり活動に参加されることで、地域コミュニティの可能性は大きく広がります。

まちづくり活動のこれから

今回の取材を通じて、まちづくり活動を行われている方々に、今後の取り組みや目標についてお聞きした際、多くの方々が「これからは無理に新規事業を始めるよりも、今あるもの、今やっていることの質を高めていきたい。そのためにも、今あるものに対して、柔軟に新しい要素を取り入れていきたい」と話されました。

これは、加東市には、地域コミュニティを活性化するための魅力的な資源が、数多くあるということです。そして、それらまちづくりの原石を見つめ直し、磨きあげていくことが、これからのまちづくりに求められています。

私たちの誰しもが、他の人にはない経験や能力を持っています。それを生かし、「無理をせず、自分にできる範囲で、地域のために貢献する」ことが、パワーに満ちあふれた、夢がきらめく加東市づくりにつながるのではないでしょうか。

楽しみながら取り組むことが、地域活性化の秘訣です。

県民交流広場事業

「県民交流広場」とは、身近なコミュニティ施設など活動の場と、そこで営まれる住民のみなさまによる手づくりの活動を総称したものです。

県と市が連携しながら、施設整備費や活動費の助成（上限1,300万円）などを行い、地域を舞台とした子育て、防犯、環境・緑化、生涯学習、文化、まちづくりなど、多彩な分野の活動を通じた「元気と安心の地域コミュニティづくり」を応援します。

まちづくり活動費補助金

地域コミュニティの活性化と、元気あふれる加東市づくりを実現するため、市民のみなさまが「自ら考え」「自ら行う」活動に対して、市が補助金を交付して応援します。（審査、補助の上限があります）

【補助の対象団体】

◆「住民自治組織」分（平成21年度当初予算額414万円）
小・中学校区単位の住民自治組織や、県民交流広場事業に取り組まれている団体

◆「応募活動」分（事業費の1/2で上限30万円）
まちづくり活動に取り組まれている市内の各種団体・グループ等

※まちづくり活動費補助金の平成21年度分の募集は終了しています。平成22年度分の募集については、平成22年4月頃、広報紙などでお知らせします。

問い合わせ　企画部企画政策課（社庁舎）☎ 43-0389

地域活性化の秘訣とは!?

まちづくり活動に取り組まれている方々に、お話を伺いました。

上福田ふれあい会会長
上月寛三良さん

◆協議会設立時の経緯について教えていただけますか。

まちづくり協議会の立ち上げに際しては、しっかりと時間をかけました。各地区の代表者などに集まってもらいワークショップを開催するなど、地域のみなさんの声を集約することに力を入れました。

◆実際に活動を始められて、状況はいかがですか。

メインの活動である三草ふれあい広場でのふれあい喫茶が好評です。営業は月に2回で、多い時には80人以上の方々が足を運んでくれています。訪れた人同士でお茶を飲みながら会話を楽しむことで、交流の輪が広がっています。

◆活動を通じて地域に変化はありましたか。

交流の機会が増えたことで、地区の行事への関心が高まったようです。

また、ふれあい広場が、絵画や書道作品を展示する、地域住民の活動発表の場となってきています。そして、その作品を見るためにさらに人が訪れ、活性化につながるという好循環が生まれています。

◆今後の活動予定や目標などをお聞かせください。

地域の史跡、歴史をまとめたマップが、いよいよ完成間近です。このマップを利用して地域を探訪することで、上福田地区の魅力の再発見につながるものと期待しています。このほか、都市と農村の交流、防災・防犯活動、世代間交流イベントの実施など、多彩な活動を予定しています。また、私たちの活動を広く発信するため、ホームページの制作にも取り組んでいます。

会員一人ひとりが自分の経験を生かして活動に取り組み、さまざまな形で地域に貢献してくださっています。そして、それが地域の活力となっています。今後も、この力を活かして、地域の元気づくりに取り組み続けていきたいですね。

米田ふれあい協議会
橋本照美さん

◆活動に参加されたきっかけを教えていただけますか。

もともとは地区役員を務めていた関係で、協議会への参加のお誘いを受けました。「地域のために、みんなで取り組む」というところに魅力を感じたので、参加させていただくことにしました。現在は、ふれあい喫茶と寄せ植え教室の担当をしています。

◆実際に参加されてみていかがですか。

ふれあい喫茶は、現在週に3回の営業で、毎回15名程度の方にお立ち寄りいただいています。喫茶のお客さんと、お話や情報交換するのはとても楽しいですね。私が好きな野菜作りについて教えてもらうこともしばしばで、先日は実際にお客さんのご自宅におお邪魔して、いろいろと教えていただきました。

また、喫茶のスタッフ同士、とても仲が良く、和気あいあいと活動できています。

寄せ植え教室は春と秋の年2回開催していますが、毎回40人以上が参加する人気行事なのですよ。

◆今後の活動予定や目標などをお聞かせください。

ふれあい喫茶は、あくまで交流の場なので、メニューを増やすということは考えていません。今後も自分たちにできる範囲で、無理をせずに楽しく続けていきたいと思っています。

資料を手に、活動について熱心に語ってくださった上月さん。取材の合間にも、ふれあい喫茶のお客さんと笑顔で話されていた橋本さん。

そのようすから、お二人がこの活動を本当に楽しまれているのが伝わってきました。

ここで生まれる交流と笑顔が、地域を明るく、活気あるものにしているようです。